

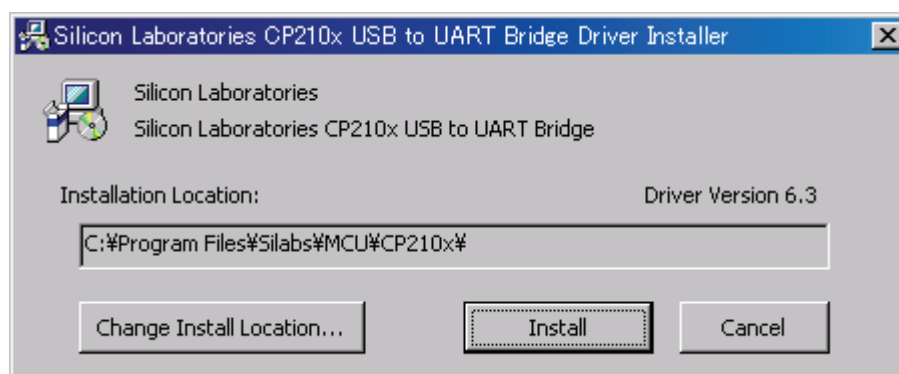
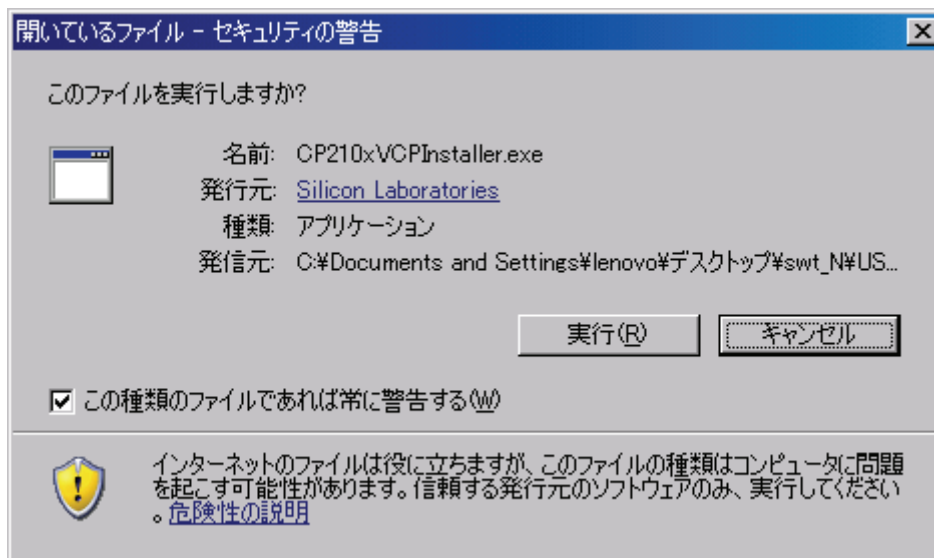
## SWTシリーズ USB転送ドライバのインストール

Windows PC を使用して膜厚計 SWT シリーズの USB 転送を行うにはドライバのインストールが必要です。

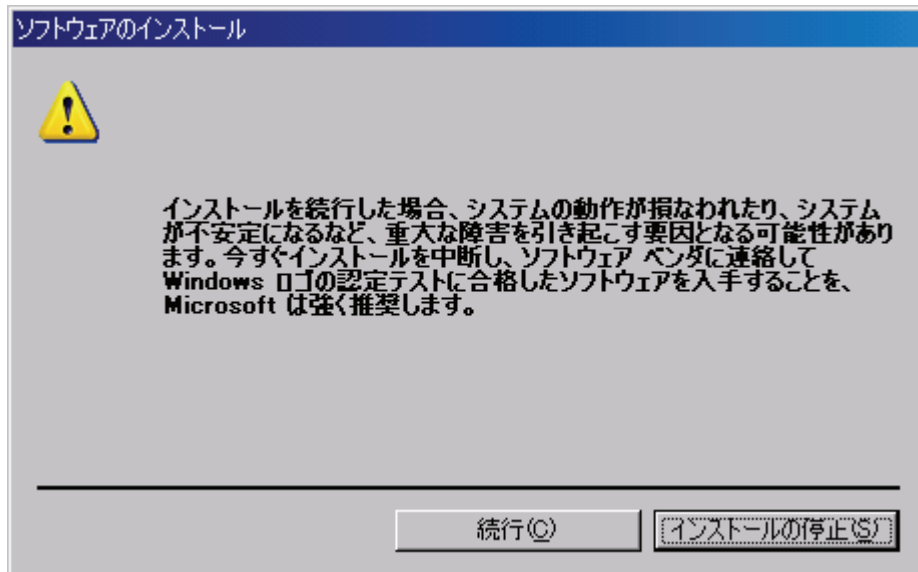
### 1. ドライバのインストール

#### ①作業に用いる Windows 接続用ドライバのインストール

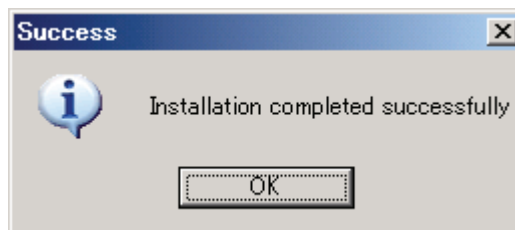
- ・ パソコンを起動し管理者権限のアカウントでログインしてください。添付の「SWT シリーズ USB 転送機能用ドライバ」(CD-ROM) を CD-ROM ドライブに入れます。
- ・ インストールプログラムは Windows XP の場合 [スタート] メニューから [マイコンピュータ] を選び、その中の CD-ROM を開き、「SWT シリーズ USB 転送機能用ドライバ」アイコンをダブルクリックします。
- ・ 次に、開いたファイルの中の [CP210xVCPInstaller.exe] をダブルクリックしインストール作業を開始します。
- ・ 「セキュリティの警告」が出た場合は、**実行(R)** をクリックし続けます。



- ・ 上記の画面になります。確認して **Install** をクリックします。
- ・ このインストールされる場所は「②膜厚計接続のドライバのインストール」で利用しますので覚えておいて下さい。



- ・ 上記の画面が出ますが、**続行 (C)** をクリックします。

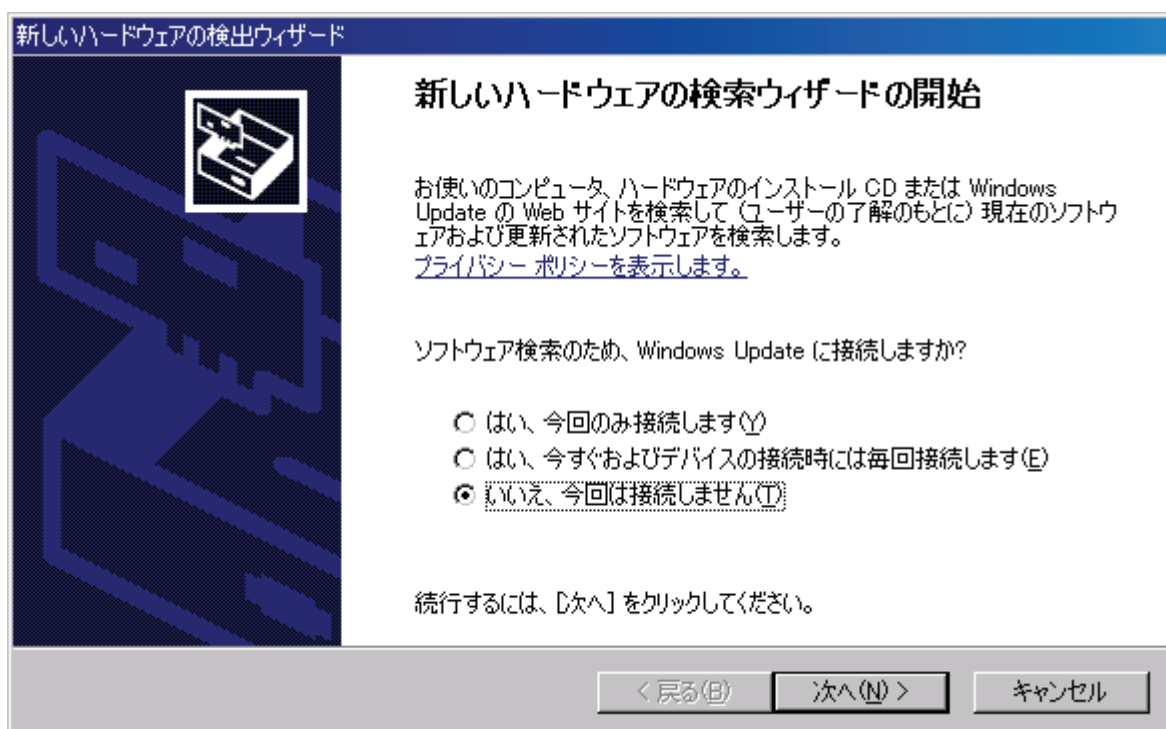


- ・ 上記の画面になります。**OK** をクリックしインストールを完了します。
- ・ これでドライバのインストールは終了します。

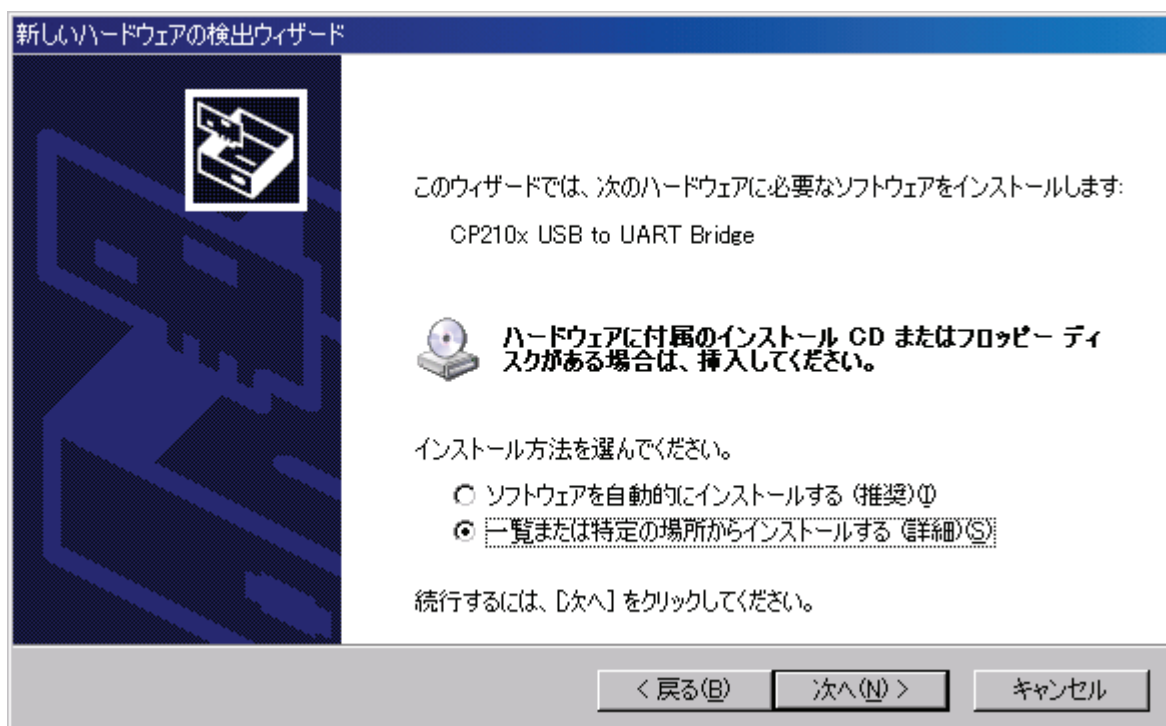
※ このインストール完了後、本体を USB ケーブルで接続すると膜厚計接続のためのドライバのインストールウィザードが起動しますのでガイドに従ってインストールを行います。

## ②膜厚計接続のドライバのインストール

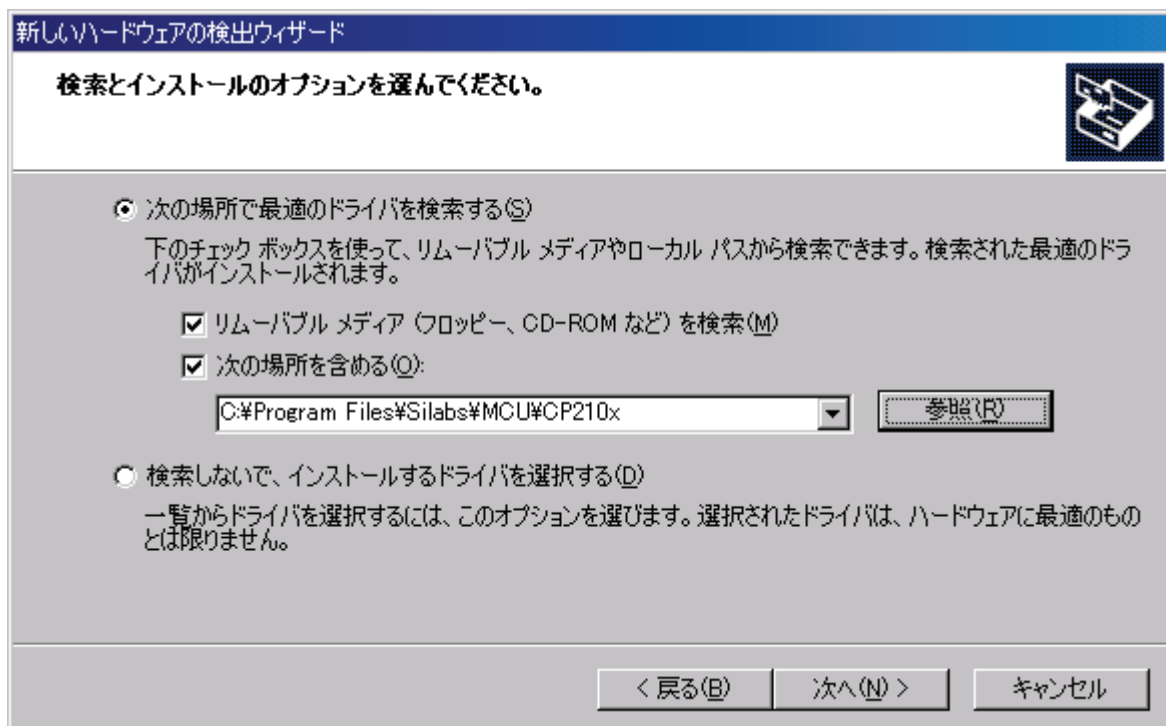
前項①の作業終了後、最初に膜厚計本体を接続すると「新しいハードウェアが見つかりました」のコメントが表示され、インストールウィザードが開始します。



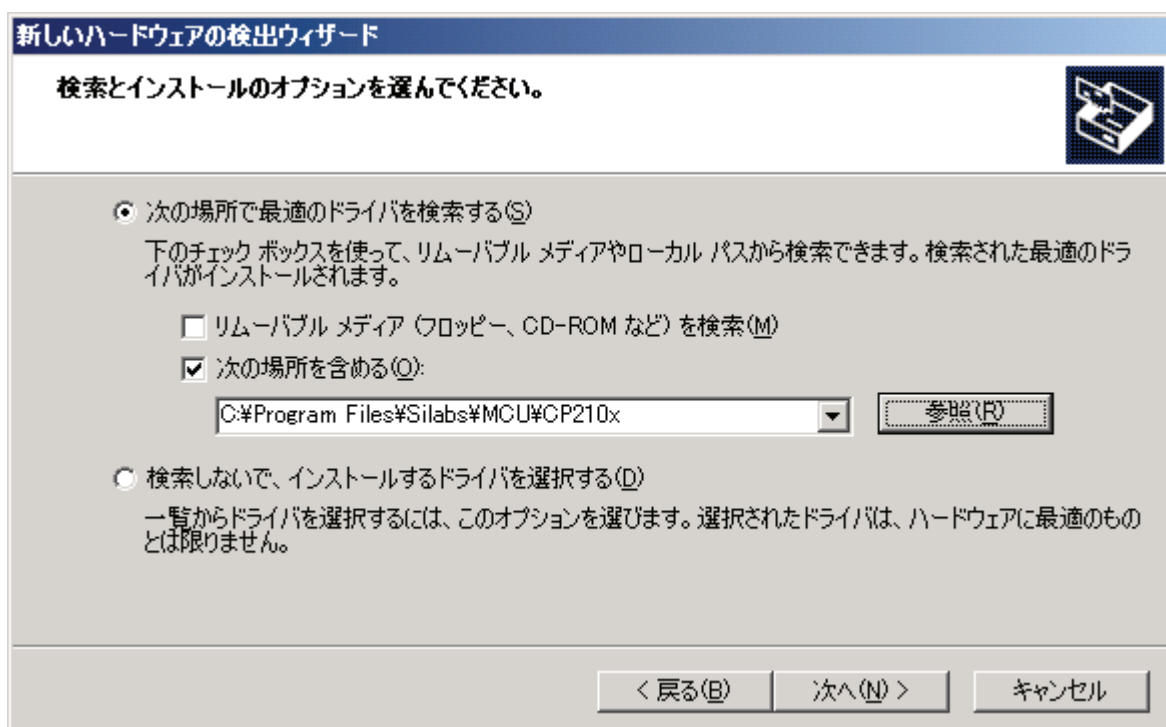
- ・ 「いいえ、今回は接続しません(T)」を選択し **次へ(N) >** をクリックします。



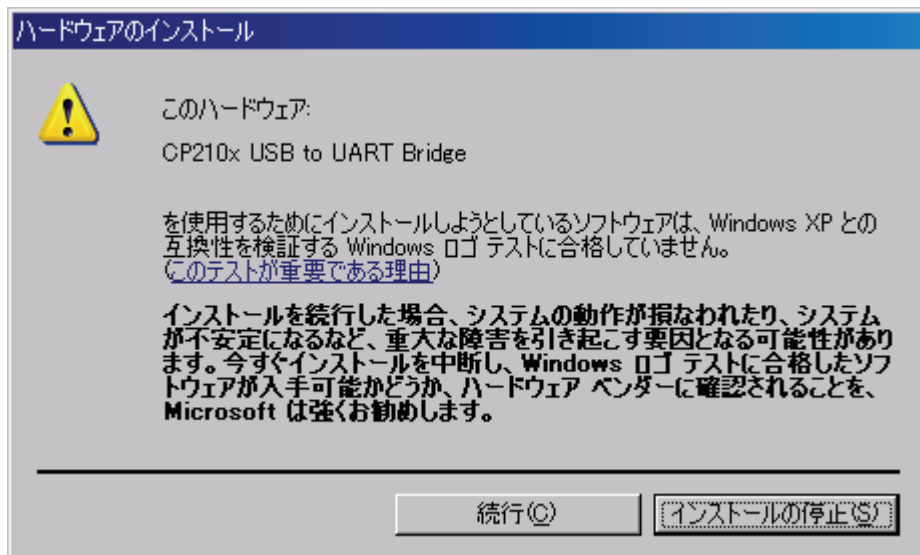
- ・ 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択し **次へ(N) >** をクリックします。



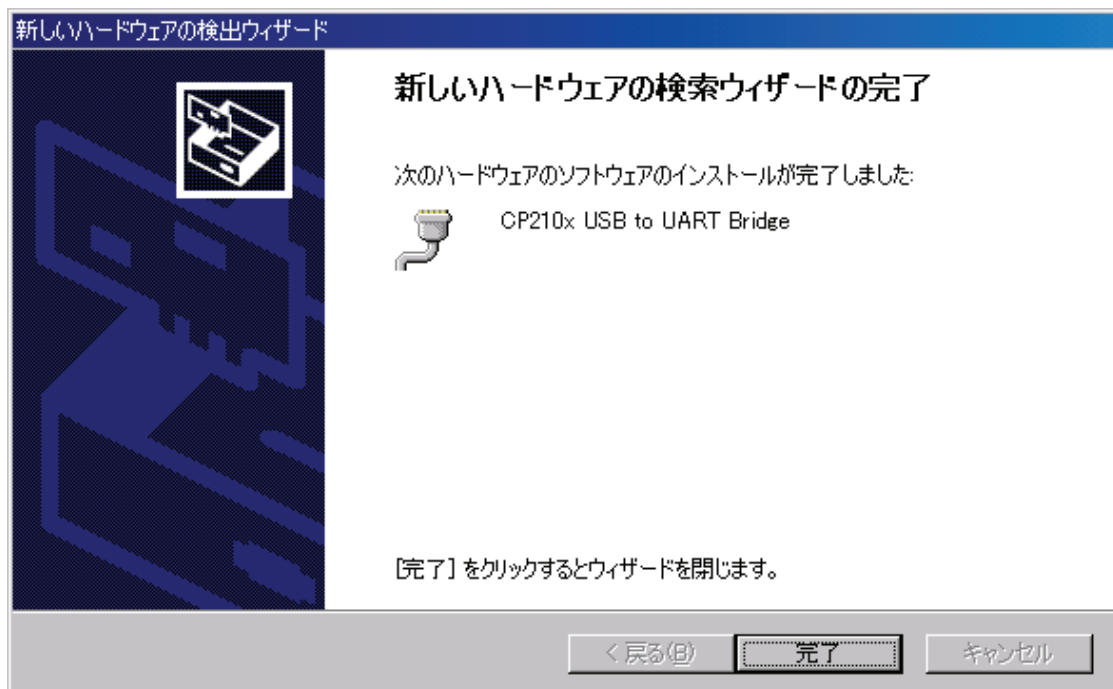
- ・ **参照(R)** ボタンを押してドライバの場所を限定します。  
(参照場所は①でインストールした場所になります。)



- ・ インストール場所は①でインストールした場所になります。**次へ(N) >** をクリックします。  
(PC により表示が異なる場合があります)



- ・ 上記の画面が出ますが、**続行 (C)** をクリックします。

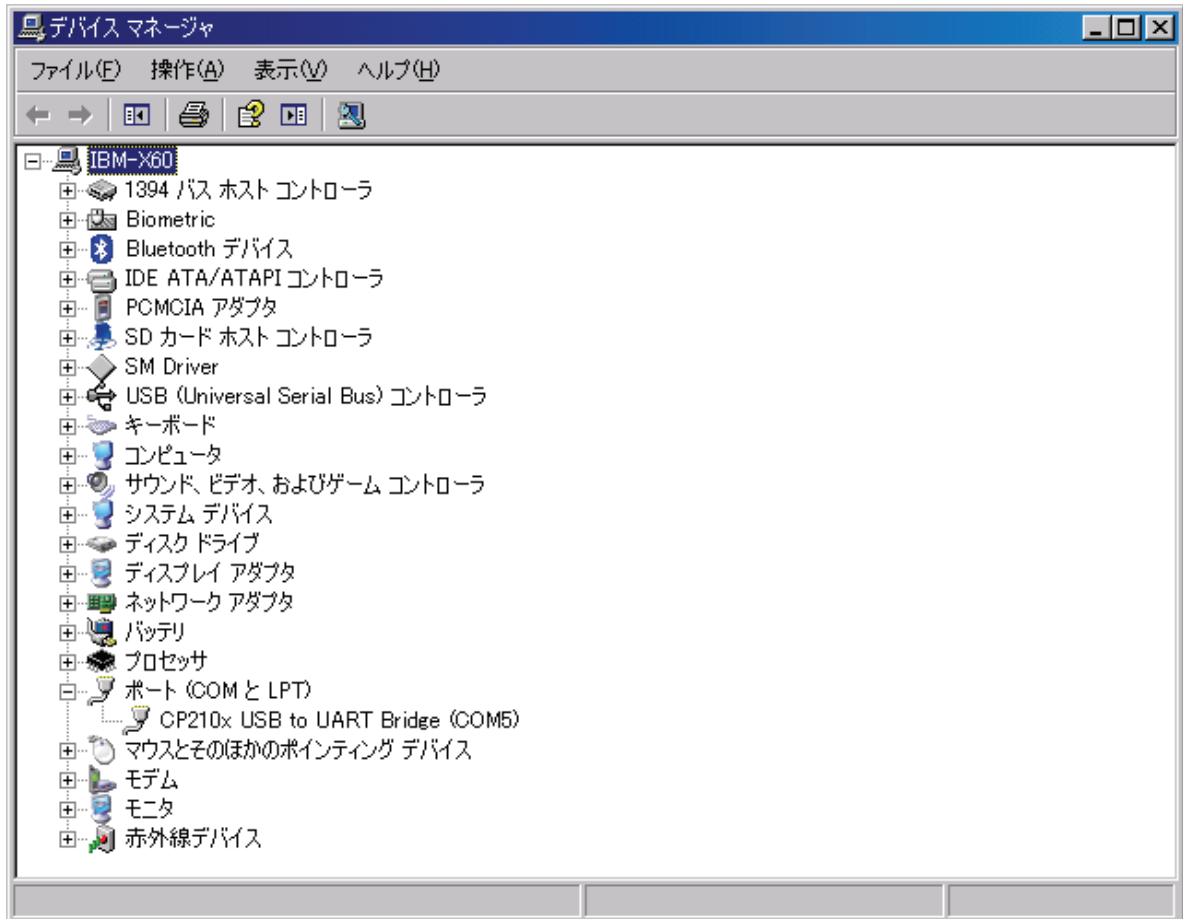


- ・ ドライバのインストールが完了します。

## 2. COM ポートの確認

- ・インストール完了後に ProductID の確認を行います。

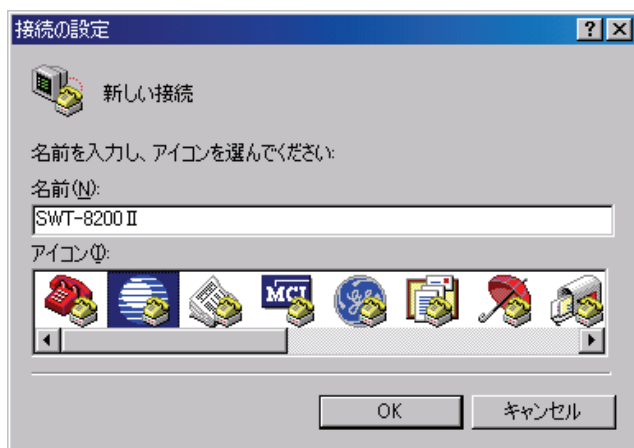
Windows XP の場合、PC に膜厚計をつないだ状態 (本体の電源はオフでOKです) で [スタート] メニューから [マイコンピュータ] で右クリックを押し「プロパティ」を選び、[ハードウェア] タグの **デバイスマネージャ** を開きます。



画面の中の「ポート (COM と LPT)」を選択し、「CP210x USB to UART Bridge (COM?)」の表示と COM の番号を確認します。

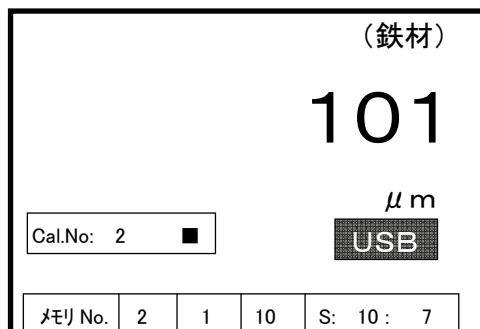
### 3. USB 転送

- ・ COM ポート確認後に USB 接続でのデータ転送を行います。
- ・ 以下 WindowsXP に付属のハイパーターミナルでの確認方法を参考に記します。  
(SWT-8200 II を例にしていますが操作はシリーズで同じです。)



膜厚計にプローブ・ACアダプタを接続してON/OFFキーを押し、電源が入ることを確認します。PCに膜厚計をつないでハイパーターミナルを起動し、表示される接続の設定画面で名前を入力してOKボタンを押します。新たに表示される接続設定のドロップダウンリストから確認したCOMポートを選択し、さらに表示されるドロップダウンリストを上から「38400」・「8」・「偶数」・「2」・「なし」をそれぞれ選んでOKボタンを押して設定します。

(以下は SWT-8200 II、8300 II に適用)



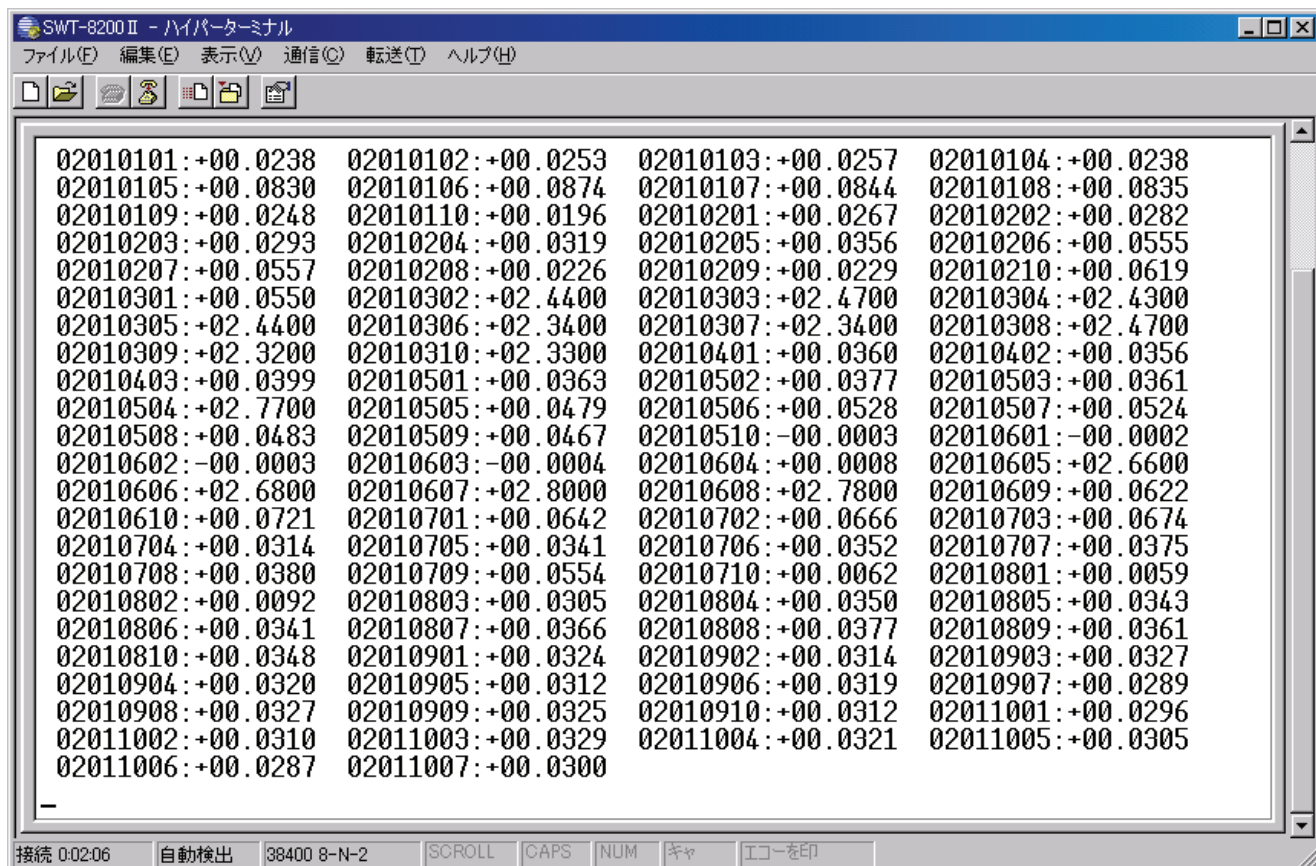
(画面は SWT-8200 II の場合)

本体に電源が入っていることを確認してから **COM. ENABLE** キーを押して LCD 上に **USB** マークを表示させ、**TRANS-MIT** キーを押して転送モードにします。

プローブを測定物に当てて計測し、本体とアプリケーションの画面に同一の数値が表示されることを確認します (本体は  $\mu\text{m}$  か  $\text{mm}$ 、アプリケーションは  $\text{mm}$  単位)。

数回の転送の後、**USB** マークの表示を確認してから **MEM. -SEL** キーを押してメモリ内データ転送モードにし、10 秒以内に **TRANS-MIT** キーを押して全データを転送します。

メモリ内データ転送モードの際に **MEM. -SEL** キーを押してデータ範囲をグループ・ブロック・セクションに指定して実行出来ます。





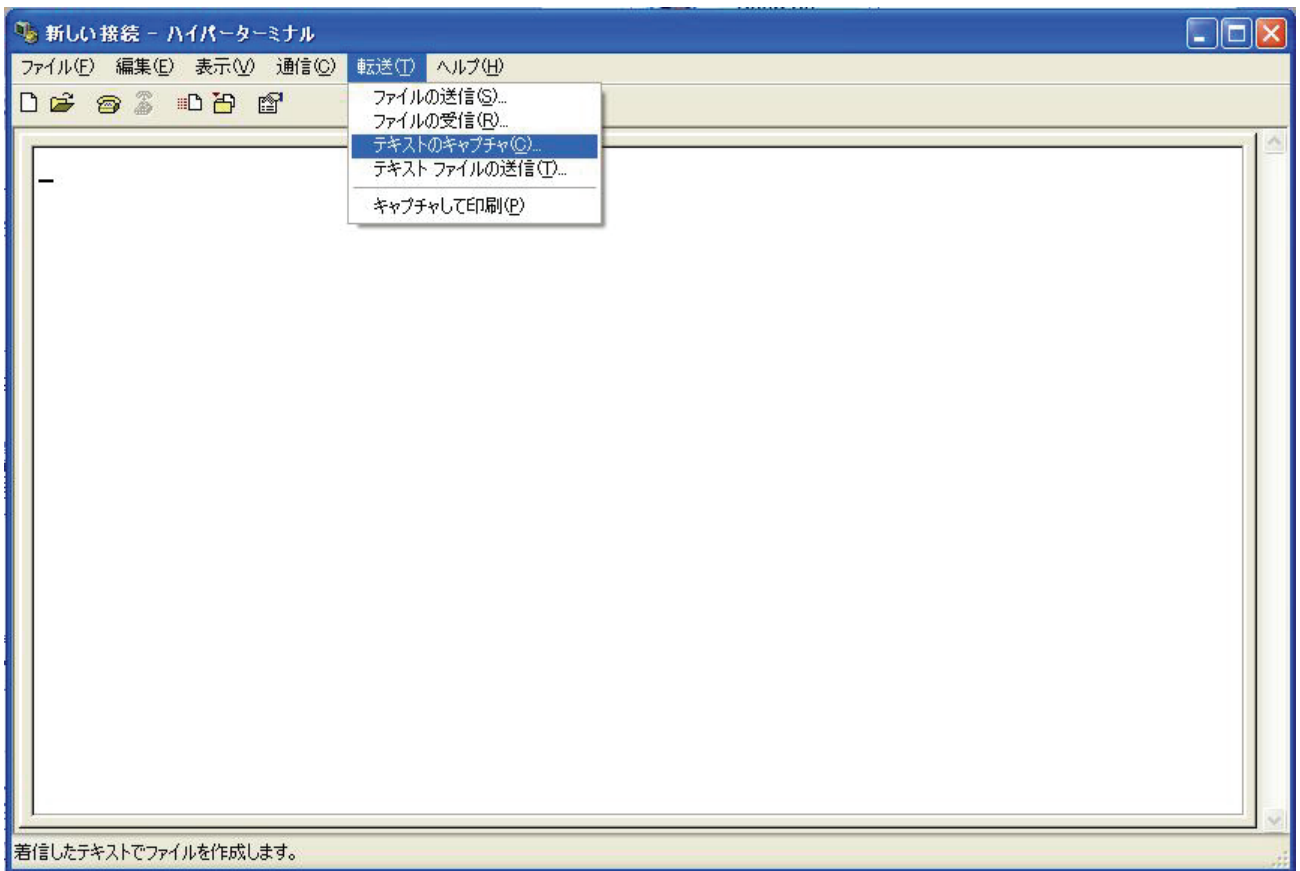
#### 4. ハイパーターミナルの記録

膜厚計 SWT シリーズを用いて USB 転送した計測値をハイパーターミナルを使って記録する方法は

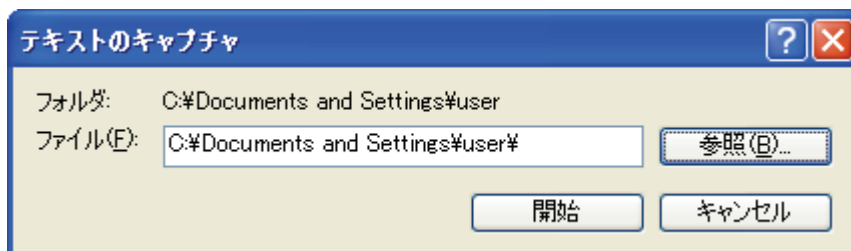
- ①キャプチャを開始して転送した値を取り込み、
  - ②キャプチャを停止してファイルに保存
- の手順があります。以下細かい操作を記します。

##### ①キャプチャの開始

転送(T) → テキストのキャプチャ(C) を選びます。



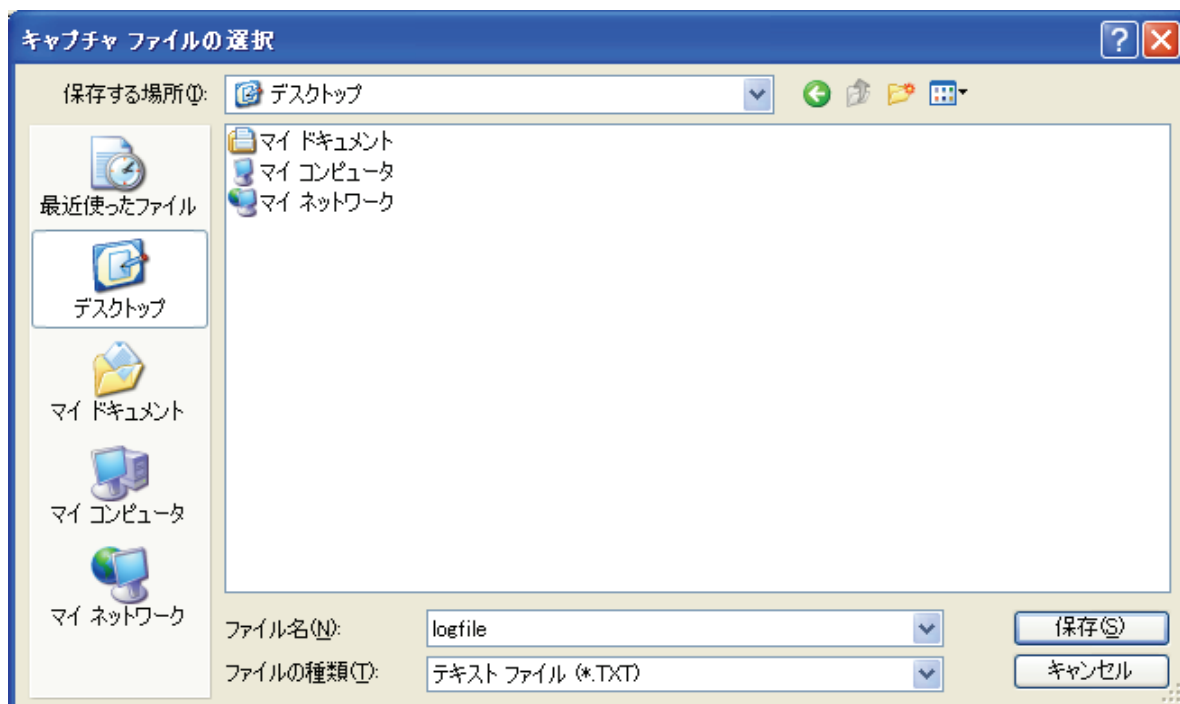
表示される「テキストのキャプチャ」画面で「参照(B)」を選びます。



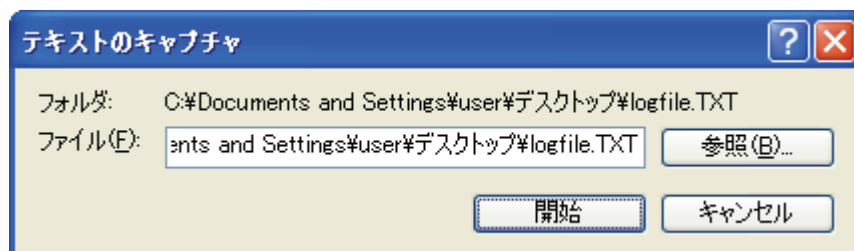
(表示される画面は PC により異なります)

さらに表示される「キャプチャファイルの選択」画面で、記録するファイルを保存する場所の選択とファイル名の入力を行い、「保存(S)」を選びます。

下図では保存する場所を「デスクトップ」、ファイル名を「logfile」にしています。



表示されていた「テキストのキャプチャ」画面で入力されたファイル名を確認し、「開始」を選びます。

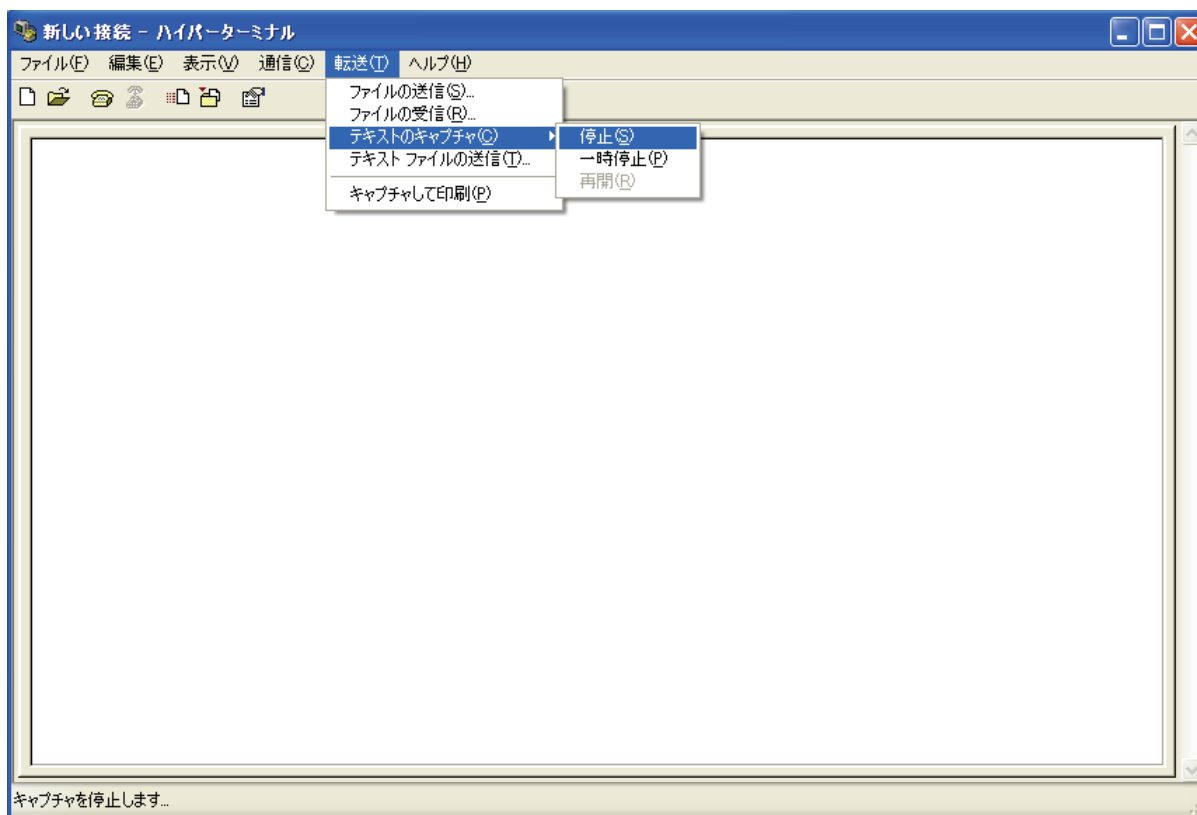


以上の操作を終えた以降の USB 転送された数値のキャプチャが行われます。

※数値のファイルへの書き込みは、後の「ファイルキャプチャの停止」作業後に行われます。

## ②キャプチャの停止

転送(T) → テキストのキャプチャ(C) → 停止(S)を選びます。



以上の操作を終えた時点までの数値がファイルに保存されます。

以上

Ver. 1.0 Nov. 2007

Ver. 3.2 May 2011